

クビアカツヤカミキリに関する技術研修会

〔一般社団法人日本樹木医会 愛媛県支部〕
令和8年度第2回研修会

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) は東アジア原産のカミキリムシ科の昆虫で、近隣国ではモモ、アンズ等サクラ属果樹の重要害虫として知られている。国内では平成24年に愛知県のサクラで初めて本種が発見されて以降、令和8年2月末までに愛媛県は含まれていないものの17都府県で発生が確認されている。発生当初は、主として公園や街路樹のサクラで発生が確認されていたが、近年ではウメ、モモ等の果樹園でも被害が確認されており、本虫は平成30年1月に外来生物法に基づく特定外来生物に指定されている。

そこで、クビアカツヤカミキリの生態や被害、防除対策に関する正しい知識や技術を研修し、本県での発生の防止等につなげる。

1 開催日 令和8年6月27日(土) 13:00~16:20

2 開催場所及び内容

○ 室内研修 (13:00~14:30)

「クビアカツヤカミキリの特性や対応策等について」

- ・ 場所 愛媛県農林水産研究所農業研究部 花き研究指導室会議室
(愛媛県東温市下林甲 2210-1)
- ・ 説明者 宗實 久義 (兵庫県支部 樹木医)

○ 現地研修 (14:50~16:20)

「クビアカツヤカミキリの防除対策の実習について」

- ・ 場所 愛媛県農林水産研究所農業研究部 花き研究指導室構内
(愛媛県東温市下林甲 2210-1)
- ・ 説明者 宗實 久義 (兵庫県支部 樹木医)

3 参集範囲

愛媛県支部及び四国地区県支部、愛媛県内造園業関係者及び関係機関

※本研修会は樹木医 CPD プログラムに認定申請中です。